

## 「あせび」

ツツジ科の常緑低木で「馬酔木」と書きます。字の如くこの木には神経麻痺症状を起こす物質があり、馬が食べると酔った様になることからこの字があてられました。

しかし、冬に緑、春に花と、庭に独特の風情を添える庭園造りに重宝される木です。

強い日射しを好みないので日陰地が良く、乾燥にも弱いので、真夏の日照りや水不足には、水をやる事が必要となります。

四月頃花をつけますが、花後に早く花を切り取り、剪定は切りつめない事を基本とし、徒長枝を切る程度で良いでしょう。



## 里山探訪 やまの恵みたち

近頃よく『薬膳』という言葉を目にも耳にします。

薬膳とは、中国に古来より伝わる食養生の方法ですが、ただ単に薬草を入れた料理を指すわけではありません。食材に含まれる成分を把握して食べ物同士の調和をはかり、人の健康により良い組合せのメニューで食べさせるのが薬膳料理です。荒涼としていた風景にも段々と色が付き、新しい息吹で満ち溢れているこの季節に野山で採れる よめな ぎしきし のびる などの旬菜は、薬膳料理の格好の食材となります。春の旬菜で作った『薬膳料理』皆さんも一度試してみてはいかがですか。



## ~お知らせ~

このたびホームページを開設致しました。  
『和』や川野和男の版画も掲載しています。  
一度ご覧になって、ご感想をお聞かせ下さい。  
アドレスはこちら  
<http://www6.ocn.ne.jp/~k-kawano>



## 遅き日の つもりて 遠きむかしかな

この句が蕪村の代表作だと言った詩人もいる

新芽がふくらんでくる春

風はやさしくなり

うららかに時は流れ

日暮れが遅くなる

暖かい居心地のよさそうな そんな昔を思いながら  
これからも懐かしさを伝えていきたい  
そんなふるさと そんな家



## 句の版画

義美先生の  
『ひらひらはなびら』  
大好きな詩です

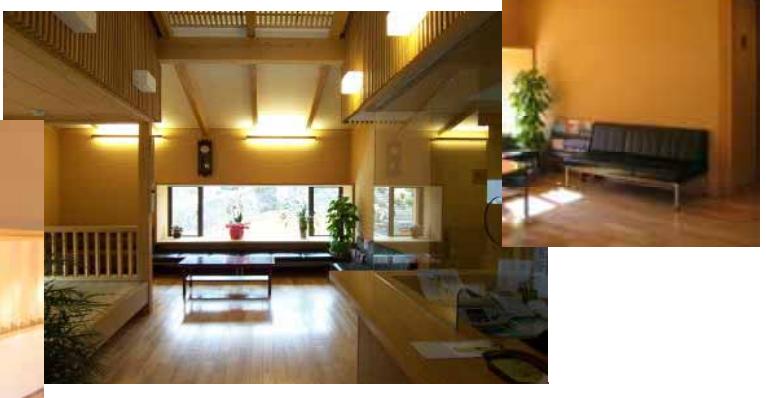
いっさんぱらりこ  
いっさんぱらりこ

昨秋より建設していた  
袖須クリニックが完成しました！  
建物全体のモチーフは『和』  
外観は  
「**蔵（瓦屋根部分）を増築**」  
という“イメージ”です。



お気付きになりましたか？  
スロープ横の塀は  
**車庫の壁**だったのを壊さずに  
流用したものです。  
旧医院の古瓦も使って  
ちょっとぴり“遊び心”で  
作ってみました。

内部のコンセプトは『安心』  
院長先生の  
「**患者さんには先ず安心を**」  
の“お考え”を形にと  
随所に工夫を凝らしました。



## 知っ得？納得！ こんな所にこんな物



今から 130 年前、明治になり 10 余年が過ぎた頃ですから、文明開化とともに欧米の文化や技術が大量に流れ込んでいた時代です。



第一発電所

そのころ竹田では、町の豪商“難波屋”黒野猪吉郎の呼びかけで、竹田防火水道（阿蘇川から山手を通って竹田町に引かれた水路）が引かれました。明治 25 年（1892 年）琵琶湖の水を利用して水力発電所が作られたことを聞くと、黒野は医者で資産家の黒川文哲と共に京都の発電所を見学に行き、竹田防火水道から稻葉川に落ちる水の落差を利用すれば竹田でも水力発電が可能だということを確信しました。

町に戻った二人は電力会社設立に向け同志を募り、電灯の便利さを解いて回るもの、なかなか理解してもらえません。中には「竹田の水と、琵琶湖の水は違う」と言う人さえ居ました。それならばと、汲んでこさせた琵琶湖の水と竹田の水を一升瓶に入れ「この二つのどこが違うのか」と人々に問い合わせた事もしました。

こうした懸命な説得により、明治 32 年（1899 年）6 月、ついに竹田水電株式会社（資本金当時 3 万円）が設立。9 月に発電所建設が始まり、翌年の 8 月に完成。竹田・玉来・豊岡の 736 戸に灯りが点りました。（余談ですが明治 11 年、アメリカのエジソンが電灯照明会社を設立し、翌年には電球の 40 時間連続点灯に成功しました。そのとき使われていた電球のフィラメントは京都石清水八幡宮の竹を炭化したものだったそうです）

その 23 年後第二発電所が建設されました。名残の疎水が佐藤義美記念館の隣に今もあります。



第二発電所



現在



先人たちの努力によって大分県でも一番早く電灯が点った事は、当時の竹田の技術力や文化の高さを今日に伝えています。



名残の疎水がここに